

留学計画 タイトル	ミャンマーから繋がる佐賀～フェアトレード×ソーシャルビジネス～		
大学名等	佐賀大学 経済学部	学 年 (採用時)	4 年
採用年度	2017年度	留 学 期 間	1ヶ月半 (2017/9/5～2017/10/19)
留 学 国	ミャンマー, タイ	留 学 先 機 関	NPO法人 地球市民の会 ミラー財団
事前・事後インターンシップ先機関	NPO法人 地球市民の会, 「道の駅」大和そよかぜ館		

留学について

目的: 少子高齢化や都市化、グローバル化による地域コミュニティの希薄化や一次産業の担い手、後継者の減少を現代の佐賀地域の課題とみなし、これらの解決のためには作り手、売り手、買い手が密に繋がる「フェアトレード」の理念を佐賀地域に取り入れることが効果的だと考える。そのためにも、まずは自分自身がフェアトレードについての最大の疑問「フェアトレードとは何か」に対する答えを途上国のフェアトレード生産者との対話を通して探すことを目的とする。

活動内容：

- 現地NPO/ NGO訪問・見学 3か所
- ・AAR Japan(認定NPO法人 難民を助ける会)
- ・マレットファン(教育支援NGO)
- ・アジアクラブリンク(NPO法人)



- 認定NPO法人地球市民の会(TPA)スタディツアー参加(ミャンマー)1週間
- ・ピンラウンジー保育園見学・ピンラウンジー村ホームビジット
- ・ボーダレス・ジャパン AMOMAのハーブ栽培地、加工工場見学
- ・ナーリー保育園見学・カッカーパゴダ観光
- ・TPA給水事業見学
- ・レーエインゴン村訪問(山の上の小学校訪問)、トレッキング
- ・マインタク村焼却炉見学・インレー湖周辺見学、観光
- ・地球市民の会(以下TPA)タンボジ農業センターで有機農業体験
- ・シュエタウンウー村訪問(ティティンあみのアクセサリーを作る生産者訪問)



- 海外インターンシップ(ミャンマー/)1週間
- ・有機野菜納品流通見学
- ・有機野菜販売所「Organic green hill」販売スタッフ
- ・お客様アンケート実施



- ボランティア(タイ/チェンライ)1週間
- ・アカ族(山岳民族)の村にホームステイ
- ・ミラー財団付近の村の子どもたちと交流
- ・日本語ボランティア(日本発信プログラム)
- ・フェアトレード事業「鳥の笛」制作・販売所見学
- ・ゾウの村(カレン族の村)訪問、ゾウ乗り体験



- (フェアトレード)ショップ・カフェ巡り 10か所(ミャンマー・タイ)

ミャンマー>Hla day, Pomelo, dacco.

タイ>Doe DEK, Lanna café, Thai Tribal Crafts Fair Trade, ソップ・モエ・アーツ, LOFTY BAMBOO(本店・カオサン支店), ban rom sai

成果：

留学を通して、私にとってのフェアトレードとは何か考えることができた。大きく分けて3点。私にとってのフェアトレードとは…

①「フェアさ」の追求

日本の生活では、消費者の立場でモノの値段や品質の良し悪しを考えることがほとんどであった。この留学では、日本に届く商品をつくる途上国の生産者、国内(留学先)で有機野菜をつくっている農家の方など「つくり手」に直接会い対話することで、○生産者の労働賃金は妥当であるか○生産者の労働環境は整っているか○消費者のニーズに応えたものづくりができているかなど、生産者の立場からモノの値段や品質について考えることができた。

はじめ自分は、「フェアとは何か。」という最大の疑問に関し、生産者に会ってみたら何かわかるかもしれないと思っていた。しかし、留学中に毎日フェアとは何か考えていくにつれて、さらにその疑問は深まっていった。「これはフェアであれはフェアじゃない。」と、ある物事・取引のフェアさに関して自分が判断したところで、その判断は結局自分の価値観の中だけで考えられたものである。当事者同士が密接に関わりあい、対話しながら「三方よし」の関係が築けるように「フェアさ」の追求をしていくことが私にとってのフェアトレードである。

②問題解決ではなく「問題提起」

帰国後、留学中にミャンマーとタイで集めたフェアトレード商品を学祭などで販売し、その売り上げをNPO法人地球市民の会のミャンマー事業のために寄付した。この活動ができたのは、日本と経済的な格差があり、物価が日本よりも安いミャンマー・タイから商品を仕入れ、仕入れ価格よりも高く日本で販売することができたからである。このことから、フェアトレードには格差があるから成り立っている部分もあると考えることもできる。フェアトレードで格差が解消されるわけではない。大切なことは、フェアトレードは「問題提起」をしてくれるということ。自分が買う商品の背景には、その商品が自分の手元に届くまでに関わってきた人々がいるということ、もしかしたらその人々の中に苦しんでいる人もいかもしれないと考える時間をくれるのが私にとってのフェアトレードである。

③人と人を繋ぐモノ・サービスの取引

①でも述べているとおり、フェアトレードは、ある取引の当事者同士が密接な関係にあることを必要としている。生産者、消費者はもちろん、双方を繋げる輸送業者や商品の販売員もその当事者の一部である。実際に自分は、学生時代にフェアトレード関連の活動を通して、フェアトレードについて考える者として、フェアトレード雑貨を販売する者として、多くの人々と繋がりを持つことができた。その繋がりはかけがえがなく信頼できるものである。私にとってフェアトレードは、あるモノやサービスを介して人と人が密接に繋がるしくみである。

以上の成果は、日頃生活する中での物事の考え方に大いに活かされている。特に①「フェアさ」の追求をすることは、プライベートにしても仕事にしても誰かと関わりたい言葉やモノのやり取りをするにあたって、お互いが納得のいくフェアなやり取りになっているかどうかをより意識するようになった。また、なにか引っかけがある場合は、やり取りの相手と対話することに努めるようになった。

伝えたい事：後輩たちへ

少しでも「留学をしてみたい」という気持ちがあればそれで十分だと思います。たとえ自分のやりたいことが明確でないとしても、わからないことだらけで自分に自信がなくても、それは留学する前のあなたです。ちょっとだけ手続きを頑張って、一歩と言わず十歩でも百歩でも世界に踏み出してみましょ。あなたの「これから」に繋がるものが、かけがえのない仲間が、きっと見つかるはず。学生のうちにできることを、思いっきり楽しんでください！

伝えたい事：支援企業の皆様へ

留学の際は、インターンシップや留学計画を進めていく中でのサポートなど大変お世話になりました。大学を卒業し社会に出た今、私はこの留学やインターンでの学びを日常生活に取り入れながら、いかにして自分が求める社会「人と人がより顔を合わせて繋がり、そのつながりを大切にして生きていく中でお互いが助け合う社会」と「仕事」を繋げるかを模索しています。その中で、今後自分が進みたい道がいくつか示されてきました。いろいろな選択肢はありますが、どの道を選んでも、自分が求める社会があることを忘れずに一歩一歩進んでいきたいと思っています。

事前・事後インターンシップ

受入機関名	NPO法人 地球市民の会・「道の駅」大和そよかぜ館(1日)	
期 間	事前： 2017/7/12 ~ 8/26 (11日間)	・2017/8/1(大和そよかぜ館)
	事後： 2017/11/1 ~ 11/27 (8日間)	

内容：〈地球市民の会〉

- ・事業報告書類の封筒詰め
- ・ミャンマー留学訪問先アポ取り
- ・ミャンマー奨学生のさとおや証作成
- ・地球市民の会海外インターン計画書作成
- ・ミャンマー事業国内イベント用アンケート作成
- ・ミャンマー事業国内イベントスタッフ
- ・タイ事業国内イベント買い出し
- ・資金調達事業(衣料品・服飾品・古切手のネット販売)
- 〈そよ風館〉
- ・店内整理
- ・レジ打ち
- ・ソフトクリーム等販売
- ・お持ち帰り用氷袋詰め